



かいちく

改築レター

発行：北区教育委員会事務局 教育振興部学校改築施設管理課

十条小学校

第5号

令和7年9月

北区では、令和11年9月の開設を目指し、十条小学校の改築事業を進めています。今回は、旧十条台小学校（住所：東京都北区中十条1丁目5番6号）で埋蔵文化財本発掘調査見学会を開催しましたので、その様子をお届けします。

十条台遺跡群とは

十条台遺跡群は、JR東日本京浜東北線の東十条駅～王子駅間の西側に位置します。南北に細長い遺跡です。

南橋遺跡は十条台遺跡群に所属する遺跡のひとつで、遺跡群の中ではやや南側に位置します。本地点は南橋遺跡の北端にあたります。

これまでに行われた周辺の調査で、弥生時代後期～平安時代及び江戸時代の集落・墓域が確認されています。



位置図

弥生時代後期～古墳時代

約2000年～約1500年前

住居跡、墓、溝が確認されました。住居跡は、弥生時代後期後半頃が主体とみられます。

溝は、弥生時代の墓制である方形周溝墓とみられ、弥生時代終末期～古墳時代前期初頭頃とみられます。

古墳時代後期と考えられる円墳は、円形の周溝のみ確認されました。直径は約15mです。詳細な時期は不明です。

遺物では、弥生時代後期～古墳時代の壺形（つぼがた）土器、甕形（かめがた）土器、高坏（たかつき）形土器が出土しています。

ほとんどが破片での出土ですが、方形周溝墓の溝から出土した壺形土器のひとつは9割ほどが残存していました。

墓制(ぼせい)

世界中にはさまざまなお墓があり、お墓を構成する制度やシステム全体のことを墓制といいます。

方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)

弥生時代前期から古墳時代前期にかけて築造された墓で、周囲を溝で囲まれた方形の墳丘を持つ特徴があります。

江戸時代後期～大正時代

約250年～約100年前

土坑と溝が確認されました。これらの用途は現在わかっていませんが、貯蓄庫、区画溝などの用途が想定されます。

これらの土坑から廃棄されたとみられる陶磁器類、ガラス製品、金属製品が出土しました。中には、屋号とともに王子町や十条の地名が書かれている徳利（とっくり）も出土しました。



発掘調査の作業は、晴れた日に少しずつ丁寧に進めていきます。

埋蔵文化財本発掘調査見学会

十条小学校の児童を対象に7月7日および8日に埋蔵文化財本発掘調査見学会を開催いたしました。同様に、7月26日に日頃より工事等にご理解ご協力をいただいている近隣の皆様を対象に開催いたしました。

4年生（7月7日）

飛鳥山博物館の方に丁寧に説明していただきました。



暑さ対策を十分にいただいたので、スムーズに開催できました。



5年生（7月7日）

掘った土を一時的に保管し、調査が終わったら埋め戻します。



発掘された遺物を実際に触って見ることができました。



約2000年も前のものが、こんなにきれいに残っていました。



6年生（7月8日）

暑さ対策を万全にしてに見学を行いました。この写真は発掘された遺物の説明を受けている様子です。



遺物(いぶつ)

過去の人類の残した物。考古学では、石器・土器・骨角器・青銅器・人骨など持ち運べる物をいい、遺跡や遺構と区別する。

古墳時代前期の壺型土器で、水や植物等を貯蔵するのに使われたと考えられています。ここまで形を保ったまま出土するものは珍しいそうです。



この場所に新しい十条小学校が建築されます。



1.3m～0.5mほど掘り下げた位置を調査していきます。

弥生時代の住居跡に侵入！当時はここで約2～10人が一家族として暮らしていたそうです。



近隣住民（7月26日）



江戸時代～近代の陶磁器がたくさん出土しました。

当日は約70名の方に見学していただきました。
ありがとうございます。



きれいな徳利が出土しました。王子等の地域の
名前が書いてあります。



 事業の進捗状況は北区ホームページからご覧になれます。

トップページ > 子ども・教育 > 小・中学校・義務教育学校 >
学校の改築・改修 > 学校の改築 > 十条小学校の改築

十条小学校の改築

検索



 お問い合わせ先
北区教育委員会事務局
学校改築施設管理課
TEL:03-3908-9277
FAX:03-3910-6885